

日本肢体不自由児協会 からのご案内



社会福祉法人日本肢体不自由児協会



事業推進部長 吉原芳徳

R5. 1. 20

第41回(令和4年度) 肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展

第41回(令和4年度)「肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展」(後援・協賛:全国特別支援学校肢体不自由教育校長会をはじめ厚生労働省・文部科学省・東京都など13団体)が、令和4年12月1日～4日までの4日間、東京池袋の「東京芸術劇場」において開催されました。

特賞28点をはじめとする122点を展示するとともに、特賞受賞者の表彰式を行いました。表彰式は、昨年同様に受賞者の皆様への新型コロナウイルス感染症の感染予防を第一に考えまして、受賞者の皆様は学校・施設や自宅からオンライン参加、来賓の方には会場に出席いただくハイブリッド方式で執り行いました。

開催初日には、当協会常陸宮殿下のご臨席のもと、開会式を行い、殿下に作品をご鑑賞いただきました。リモートで殿下をお迎えした受賞者2名より作品に込めた思いや制作の苦労についてお聞きになり、それぞれに「おめでとうございます」とお祝いの言葉をかけられました。





藤澤 原 蒲 鳴 海 京 師

書の部で受賞の青森県立八戸第一養護学校中学部3年古田光さんは、「この作品は、修学旅行先での博物館で出会った歌川広重の東海道五十三次を題材にしています。文字は、あたたかみを感じられるよう工夫し、時々かすれを意識して、自然の雄大さを表現しました。今回の経験を糧に、これからも表現活動に挑戦していきたいと思います」



絵画の部で受賞の横浜市立上菅田特別支援学校高等部1年阿部華鈴さんは「この作品は、千葉からの帰り道に車の中から見た夕暮れの空です。一番見ていただきたいのは、電柱や建物を真っ黒にしながらも遠近法を使ったり、夕日の空を表すためにグラデーションにしたりして描いたことです。夕日の映り変わりゆく空の一瞬を美しい風景を高校1年生の夏の終わりとして描きました。それが認めただけで嬉しいです」と殿下にお話しされました。

引き続き行われました表彰式は、主催者である当協会の遠藤浩理事長の挨拶にはじまり、来賓や審査委員の方々をご紹介後、厚生労働大臣賞をはじめそれぞれの団体賞を受賞された皆様をお一人ずつ表彰しました。受賞された皆様には、あらかじめ徽章と記念のメダル等をお送りしてあり、参加いただきました。



「はげみ」について

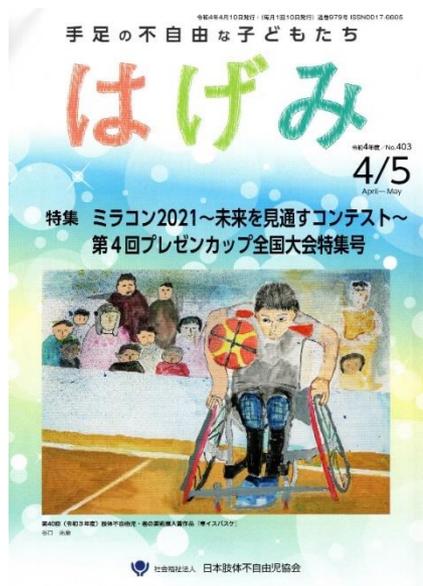
「はげみ」は、障害児・者を育てるお父さん、お母さん、ご家族のみなさんなどの励みとなるようにと発行されてから60年を超えました。編集委員には、文部科学省の菅野視学官をはじめとするそれぞれの分野の専門の方をお願いし、医療のこと、訓練のこと、教育のこと、福祉制度のこと、しつけや生活にかかわる情報提供や、いろいろなテーマを最近の動向にあわせて分かりやすく解説しています。

お父さん、お母さん、施設の職員の方、学校の先生方などのみなさんに読んでいただける情報誌です。

毎回全肢長事務局様にお時間をいただき「はげみ」の広報をさせていただいておりますが、購読者の減少が続いております。20年以上価格を据え置いて参りましたが、制作費の高騰もあり、令和5年度より価格を改定させていただくことといたしました。

年間購読料 4,180円→4,950円(送料込み)

ご理解のほどよろしくお願いいたします。



令和4年度より「はげみ」では、年6回発行の最初の号4/5月号にて「**ミラコン～未来を見通すコンテスト～プレゼンカップ全国大会**」を特集させていただくことになりました。素晴らしい提言を多くの人に届けることに多少なりとも寄与できると考えております。また、次を目指す生徒さんたちの「傾向と対策」ともなる参考書としても役立つことと思います。現在、先月(12月14日)に開催されましたミラコン2022 第5回プレゼンカップの特集号を令和5年4月10日に発行すべく準備中です。単号でも取り扱いますが、ぜひ年間購読でのお申込みをよろしくお願いいたします。

すでにご購読いただいている学校も多くありますが、各校で1セットの年間購読をご検討いただければ幸いです(公費扱い等も可能です)。

肢体不自由児のある子どもの Windows と iPadOS 活用講習会 開催要項

1. 趣 旨 肢体不自由のある子どもたちの生活や学習を豊かにするためのコンピュータ機器を有効に活用できるよう、講座を行います。本研修会では主に、iPad を中心としたタブレット PC やそれを活用したスイッチ機器の活用と、視線入力機器の活用を中心に講義と実習を行います。
2. 主 催 社会福祉法人日本肢体不自由児協会
3. 日 時 令和5年3月18日(土)～19日(日)
4. 会 場 心身障害児総合医療療育センター 療育研修所 (東京都板橋区小茂根 1-1-10)
18日(土)の講義は、オンラインでも行います。
ライブ配信しますので、「2日間連続の参加は難しいけれど、その日のみオンラインで参加したい」という方も申し込み可能です。
なお、19日(日)はライブ配信はありませんので、現地参加できる方のみ参加申込を受け付けます。
5. 交 通 東京メトロ有楽町線及び副都心線「小竹向原」駅下車 徒歩約10分
6. 対 象 特別支援学校・療育関係者等
7. 内 容 肢体不自由児の表現を豊かにするコミュニケーション支援機器の活用方法について「基本設定」「ソフトの選択」「入力方法」「授業での活用実践」などを、専門的立場から指導にあたっている第一線の講師による講義と実習により受講します。
8. 講 師 伊 藤 史 人 (鳥根大学)
金 森 克 浩 (帝京大学)
谷 本 式 慶 (東京都立小平特別支援学校)
山 下 さつき (東京都立府中けやきの森学園)
福 島 勇 (国立高専機構熊本高等専門学校)
9. 参加費 **両日参加の場合 16,500円(対面講習)※初日はオンライン参加も可**
初日の講義のみ参加の場合 5,500円(オンライン)
10. 日 程 ○1日目(3月18日)9:30～17:00
受付 9:00～
講義 9:30～10:20 肢体不自由児のための支援機器入門(金森)
10:30～11:10 肢体不自由児のための支援機器活用実践紹介①(谷本)
11:20～12:00 肢体不自由児のための支援機器活用実践紹介②(山下)
13:00～14:00 iPadOS「アクセシビリティ機能紹介」(福島)

- 14:10～15:40 視線入力「なぜ重度障害児に視線入力装置を導入するのか」(伊藤)
15:50～16:40 視線入力「EyeMoT 超入門」(伊藤)
16:50～17:00 「まとめ」(金森)

○2日目(3月19日)9:00～16:30

- 実習 9:00～10:50 「視線入力装置の設定と導入のコツ」(谷本・福島・山下)
11:00～12:00 「視線入力装置を使ったアプリ操作演習」(谷本・福島・山下)
実習 13:00～14:30 「iPad のスイッチコントロール活用演習」(福島・谷本・山下)
14:40～16:10 「iPad の AssistiveTouch 活用演習」(福島・谷本・山下)
16:20～16:30 「まとめ」(金森)

11. 申込方法

- 1月10日(火)11:00より先着順で受け付けます。
- 当協会ホームページの「研修会」(<https://www.nishikyo.or.jp/workshop/index.html>)ページから申込してください。
- 「申込フォーム」より必要事項をご記入いただき、送信ボタンを押してください。
18日は、オンライン受講も行い、講義のみの受講も可能です。
- 申込確認メールを当協会よりお送りします。
※インターネットでの申込後に申込確認メールが届かない場合はお手数ですが、お電話(03-5995-4511)にてご連絡ください。
※迷惑メールの対策などでドメイン指定を行っている場合、メールが受信できない場合があります。「@nishikyo.or.jp」を受信設定してください。
- 参加費3月3日(金)までに下記まで払込ください。
両日参加 16,500円
講義のみ参加(18日) 5,500円
※講義のみの場合は、オンライン受講となります。
両日参加の方は、講義を会場でも受講することもできます。
郵便振替 00130-0-51082 社会福祉法人日本肢体不自由児協会
- 参加者には、当日のご案内等詳細を3月10日ごろにメールにてお送りいたします。
- 参加できなくなった場合にはお早めにご連絡ください。
- キャンセルについて
3月3日(金)までにご連絡いただきましたら、参加費は全額ご返金いたします。3月4日以降につきましては、参加費は原則返金いたしません。なお、代理出席の場合は必ず事前にご連絡ください。一般的な旅行契約等とは異なりますが、ご了承願います。

12. その他 ※新型コロナウイルス感染症の状況により時間・内容変更等の可能性があります。
※19日の実習に参加される方には、必要な機材や予めインストールをお願いするアプリ等の連絡をいたします。

13. お問い合わせ先

〒173-0037 東京都板橋区小茂根1-1-7
社会福祉法人日本肢体不自由児協会 事業推進部
TEL:03-5995-4511 FAX:03-5995-4515
E-MAIL:workshop@nishikyo.or.jp